

## 専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価

### —平成 26 年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成 18 年度より授業評価を開始、平成 20 年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成 23 年度に授業アンケートのリニューアルを実施し、久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

#### 【学生による授業評価】

##### 1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項と本学院の特徴である e-school に関する事項とした平成 22 年度までの授業アンケートと同様の項目を大項目とした。細項目については、一部の文言を修正、各大項目における項目数の見直しを行った。大項目および細項目については、以下に示す。

##### (1) 教員の授業の進め方

- ① 授業担当者は、授業の目標や内容を明確に示していた。
- ② 授業担当者は、指定された教科書あるいは参考書の活用方法を提示していた。
- ③ 講義時間と実技実習時間の配分は適切だった。(該当科目のみ)
- ④ 授業担当者は、効果的に学生の参加（発言等）を促した。
- ⑤ 授業担当者は、学習に対する適切な助言を与えてくれた。

##### (2) 教員の伝え方

- ① 板書および配布資料などは、効果的であった。
- ② 授業担当者の話し方は、聞き取りやすかった。
- ③ 授業担当者の説明は、分かりやすかった。
- ④ 実習や国家試験に活かせる知識、技術を習得することができた。

##### (3) 教員の関わり方

- ① 授業担当者の授業に対する熱意を感じた。
- ② 授業担当者は、学生の迷惑行為（私語）を注意し、適切な授業環境を保つことに努めた。
- ③ 授業担当者は、学生の質問や相談に対し適切な助言を与えてくれた。

##### (4) パソコンや教材の活用

- ① 授業担当者は、パソコンのスライドやメディアなどを効果的に活用していた。
- ② 自分は、この授業の学習（授業・自己学習）においてパソコンを効果的に活用できた。
- ③ 指定された教科書や参考書は学習内容を理解するのに役立った。

##### (5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業を受けて、学習意欲が高まった。
- ② 自分は、この授業に意欲的に取り組んだ。
- ③ 総合的にみて、この授業は満足できるものであった。

## 2. 評価の方法および集計方法

平成 22 年度までの授業アンケートにおいては、上記の評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「強くそう思わない」の 4 つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」とした。しかし、平成 23 年度より、選択肢を「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「強くそう思わない」の 5 つの選択肢に変更した。また、「無回答」は、回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生数とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートより変更せず自由に記載してもらった。

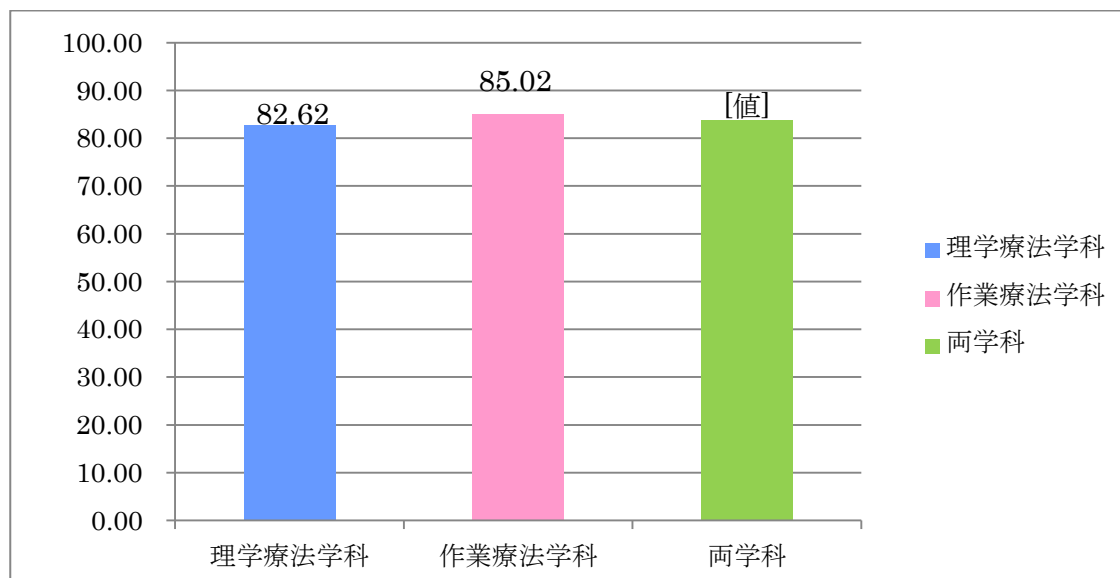
集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として 100 点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

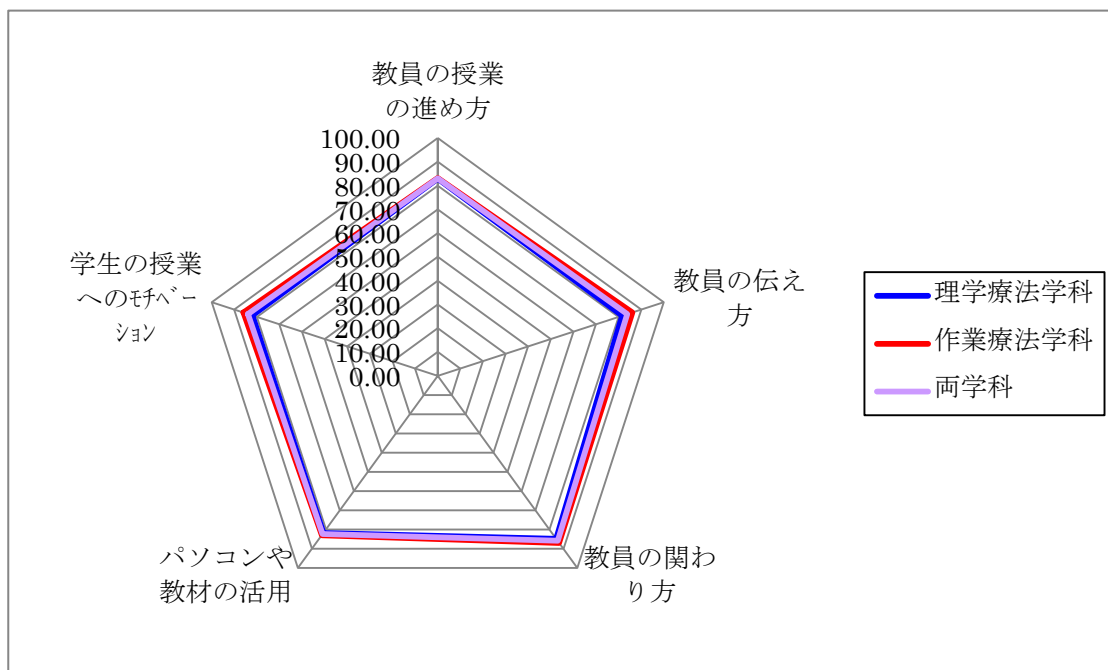
「強くそう思う」	: 5 点
「そう思う」	: 4 点
「どちらとも言えない」	: 3 点
「そう思わない」	: 2 点
「強くそう思わない」	: 1 点
「無回答」	: 0 点

## 3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
教員の授業の進め方	82.88	83.23	83.06
教員の伝え方	81.62	86.10	83.86
教員の関わり方	84.79	86.87	85.83
パソコンや教材の活用	81.80	82.90	82.35
学生の授業へのモチベーション	82.00	85.97	83.99
総合 score	82.62	85.02	83.82





授業アンケート集計結果 平成 25 年度と平成 26 年度の比較

	理学療法学科		作業療法学科		両学科	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26
教員の授業の進め方	77.37	82.88	81.73	83.23	79.55	83.06
教員の伝え方	75.85	81.62	84.86	86.10	80.36	83.86
教員の関わり方	78.94	84.79	84.72	86.87	81.83	85.83
パソコンや教材の活用	76.65	81.80	78.61	82.90	77.63	82.35
学生の授業へのモチベーション	76.21	82.00	84.00	85.97	80.11	83.99
総合 score	77.00	82.62	82.79	85.02	79.90	83.82

(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動系統学 (PT・OT)	資料や動画を準備して頂いたので分かりやすかった。/グループに説明して頂けた。楽しかった。骨の具体的な名称や関節、靭帯を学んだが難しかった。/難しかったけど楽しく授業に参加できた。/熱意に引っ張られやる気が出た。スライドが分かりやすかった。/資料や動画を準備して頂いたので分かりやすかった。
臓器系統学 (PT・OT)	先生の説明は身近なものに例えていたので、分かりやすかったです。/先生の身体を使ったり、独特の説明法はとても分かりやすかったです。/ひとつひとつ覚えるのではなくて関連づけて理解する事ができたので良かったです。

神経系統学 (PT・OT)	国家試験のポイントを多く知れてよかった。
リハビリテーション概論 (PT・OT)	先生の経験話がおもしろかった。/話すスピードがよく、とても聞きとりやすかった。/先生の授業に対する熱意をととても強く感じました。
作業療法概論演習	自分がきちんと練習をして身につけていくことが必要だと授業を受けていて改めて感じた。/実技をもっと上手くスムーズにいけるように練習したいと思います。
精神医学 I (OT)	先生が精神科に勤めている時の話を聞いて、精神科に興味を持ちました。/文章だけだと理解しにくいので、体験談を話してもらおうと、なるほどと思うことが出来た。
日常生活活動 (PT・OT)	グループ学習などみんなで考えるような場を作ってくれていたのも、とても好きな授業でした。/実技練習の際の説明が分かりやすかった。詳しく説明してくださったので分かりやすかったです。
作業治療学Ⅲ (OT)	精神分野に興味を持つことができた。実習も少し楽しみになりました。/発表をすることで自分の足りない部分を知ることができた。/私たちが共感できるエピソードや例を挙げて教えるのでわかりやすい。/授業についてとても熱い思いを感じた。
臨床運動学 (PT)	臨床での話もあり勉強になりました。臨床とつながってわかりやすかった。/親身になって勉強の悩みなどをきいてくれたのでたすかりました。
神経障害理学療法学 (PT)	質問に対して分かりやすく説明があったので理解しやすかった。とても分かりやすかったです。/授業の雰囲気はすごくよくて楽しく勉強できました。
内部障害理学療法学 (PT)	分かりやすく、分からないところは分かるまでしてくれたので良かったです。/臨床的なことも多く話してくれてわかりやすかったです。
理学療法評価学 (PT)	わかりやすかったです。もっと勉強して評価がスムーズに誰に対しても行えるようにしたいです。

# 授業評価総評

例年、久留米リハビリテーション学院では「授業評価」をとっています。

平成25年度の授業評価との比較を行いました。[授業評価の詳細は昨年度のパナーを参照してください。](#)

先ず理学療法学科ですが、平成25年度の総合評価が75.25ポイント、平成26年度の総合評価は82.62ポイントであり、総合で7.37ポイント上がりました。詳細を見ていくと「授業の進め方」では5.51ポイント、「教員の伝え方」では5.77ポイント、「教員の関わり方」では5.85ポイント、「パソコンや教材の活用」では5.15ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では5.78ポイントと、すべての項目で上昇しました。

今年度は新しく2名の教員が入職し、若干の担当科目の変更があったにもかかわらず昨年度よりもポイントが上昇したのは、全教員が理解すべきポイントをしっかりと講義することができたこと、また、昨年度の授業評価から創意工夫が行えたことが挙げられます。

しかし、ポイント上昇の一番の要因は、学生の授業へのモチベーションを上げることができたことではないかと考えます。今後も教員と学生の関わり方を考えながら、さらに良い講義ができるように努めていきたいと考えます。

次に作業療法学科ですが、平成25年度の総合評価が82.57ポイント、平成26年度の総合評価は84.73ポイントであり、2.16ポイント上がりました。上昇率で一番大きかった項目は昨年度と同様に「パソコンや教材の活用」で6.84ポイント上昇していました。これに関しては昨年度に引き続きイメージで覚えてもらうために、当学院の特色でもあるe-schoolシステムを活用し動画等の配信を多くしたからではないかと考えます。今後も動画コンテンツを増やし、また講義のみに関わらず学生の自己学習に有効活用できるよう準備を行っていきます。

結果として昨年以上の評価をいただきましたが、慢心せず、より良い講義ができるように取り組んでいきたいと考えます。

近年、学生の成績向上のために、居残り学習や早期からのグループ学習の導入など様々な取り組みを行っておりますが、やはり学習の原点は「予習をし、講義をしっかりと聞き、復習をすること」だと考えております。そのためにも、学生がいかに関心を持って講義に臨むかが重要であり、学生の自主性を導き出すよう講義を展開させていく必要性を感じております。

当学院では前・後期終了ごとに授業評価を行い、それに対する振り返りや改善への取り組みを行っています。結果が悪ければ問題点や課題を見つけることは難しくないのですが、良かった時こそ、きちんと振り返りをして、さらに良いものとしていかなければいけないと考えます。

今回の結果を踏まえ、各教員には「講義実施に関する課題とその対応」を認識してもらい、より良い講義となるように次年度以降の講義に取り組んでもらいます。

平成27年2月吉日

久留米リハビリテーション学院

教務委員長 大坪 健一